



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

年間第13主日 C年 (2022年6月26日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：列王記上 19章16b、19—21節

第二朗読：ガラテヤの信徒への手紙 5章1、13—18節

福音朗読：ルカによる福音書 9章51—62節

## せきしゅ こえ き 隻手の声を聞け

### 説教

福音朗読は「エルサレムに向かう決意を固められた」(51節) イエスさまとその一行の旅の始まりの場面です。57節の「と言う人がいた」に注目してください。ここから三人の人物が登場します。「どこへでも従って参ります」(57節)、「父を葬りに行かせてください」(59節)、「家族にいとまごいに行かせてください」(61節)。どの人もイエスさまに従う意志がない人ではありません。弟子として不都合ではない人たちです。しかし、イエスさまは従い方を教えます。57節の「と言う人がいた」の「人」とは、原文では不定代名詞「ある者」です。イエスさまの後に従って歩んでいる人は十二人の弟子たちだけではなかったのでしょうか。たくさんの人々がイエスさまに従っていたのです。

一番目の人にイエスさまは「人の子には枕する所もない」(58節)と言われます。「人の子」とは、イエスさまがご自分のことを語る時に使う表現です。狐にも、空の鳥にも暖かく過ごすことができる巣、すなわち家庭がある。しかし、イエスさまにはそれがありません。52節の「準備しよう」とはヘトイマゾーとギリシア語で言いますが、これは食卓を準備する、宿泊を準備するの意味です。サマリア人の村の人々は、イエスさま一行が宿泊するのを拒絶したのです。イエスさまが拒絶されるなら、イエスさまに従っている弟子たちも拒絶されるのです。

イエスさまの後に従っている二番目の人にイエスさまは「わたしに従いなさい」(59節)と命じます。すでに従っているのに、あえて「従いなさい」と言われるわけですから、この命令には特別な意味があります。60節の「死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい」は厳しい命令となります。ユダヤ人にとって親に対する孝行は絶対的なものでした。イエスさまはそれを無視します。「死んでい

る者たち」とは亡くなった人の家族や親族を指すのでしょうか。彼らはイエスさまから見るとご自分に従わない者たちです。つまり、イエスさまから切り離された生ける屍と同様の人たちです。「死人たちを葬らせよ」の「死人たち」とは実際に死んだ者たちのことを指します。イエスさまに従うとは「神の国を言い広め」(60節)ることとつながるのです。ですから、イエスさまを通じて神の国のメッセージに触れ、それに結ばれていのちを得た人は、そのいのちを宣べ伝えることに専念しなければなりません。

三番目の人が第一朗読と関連するかもしれません。エリシャはエリヤに「家族にいとまごい」(61節)を願い、許されました。しかし、イエスさまに従うのはもっと厳しいのです。イエスさまは家族へのいとまごいを認めません。イエスさまに従うとはすべてに優先されるものだからです。畑を耕す鋤を使う人は顔をまっすぐ前に向けていないと、畑の畝が曲がってしまいます。同じように、顔をエルサレムに向けたイエスさまだけに目を向けて歩まなければならないのです。

わたしはこの箇所を読むと、禅の言葉「隻手音声」を思い出します。両手を合わせると「パンツ」と鳴る。では片手(隻手)では? しかし、その音声を聞かない限り仏さまのころは分からないという意味でしょうか。「隻手音声」はわたしを「今」、「この時」へと集中させます。聞こえるはずのない音に「今」耳を傾ける生き方です。イエスさまに従おうとした三人の人は「今」を生きていません。過去や未来にこだわります。イエスさまの後に従うとは「今」を生きることなのだと思います。



「両手を打って声あり、隻手になんの声もある」